

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## カヌーメンバーが損害賠償求め国を提訴 高速ボートで意図的に衝突されムチ打ち症に



記者会見中のコルセット姿の千葉さん（左から3人目）、その右は三宅弁護士（30日）。

### 【千葉裁判への支援やカンパの送付先】

へり基地反対協議会 Fax 0980-53-6992  
 〒905-0015 名護市大南 1-10-18-203  
 郵便振替口座 01700-7-66142  
 加入者名 へり基地反対協議会  
 ※通信欄に「千葉裁判への支援カンパ」と記入してください。

海保の硬式ボートが衝突した際の動画のQRコード  
 (市民提供)



名護市の千葉和夫さん（78歳）は7月30日、辺野古新基地建設に抗議するためカヌーに乗って活動中、海上保安庁の硬式ゴムボートに意図的に体を衝突されケガを負ったとして国に対し約280万円の損害賠償を求めて那覇地裁に提訴しました。訴状によると4月15日、K8護岸近くで抗議活動をしてきた千葉さんに海保職員が高速ボートを回避行動とることなく意図的に衝突させたものです。原告代理人の三宅俊司弁護士によると海保の行為は海上衝突予防違反及び特別公務員職権濫用致傷罪に当たると指摘しています。

事故直後、千葉さんは救急車で運ばれいまだにムチ打ち症状に悩まされています。この間、海上メンバーの抗議に対して海上保安庁は「適正な行動だ」と言い張ってきたため、千葉さんは証拠のビデオ（※QRコード参照）をもとに提訴したものです。千葉さんは記者会見で「個人の問題ではない。他のメンバーも同じ目に合うかもしれない。職権乱用は許せません」と訴えました。へり基地反対協会は、全国の皆さんに千葉さんと闘う仲間への支援を訴えています。（取材協力・仲本興真氏）

海保の職権乱用など犯罪は許せない

### 「留意事項守らぬ国 裁判所がブレーキを」 辺野古住民訴訟第12回口頭弁論開く

辺野古新基地建設で国土交通省が沖縄県の埋め立て承認を撤回したのは違法だとして辺野古の住民らが採決の取り消しを求めた抗告訴訟の第12回口頭弁論が7月29日、那覇地裁（福渡裕貴裁判長）で行われました。

原告側の中村昌樹弁護士が「国は、県の埋立承認の条件とした留意事項を守らず工事を強行している。軟弱地盤の存在などが明らかになって設計変更が余儀なくされ、完成時期も不明だ。ブレーキをかけることができるのは裁判所だけ」と陳述しました。

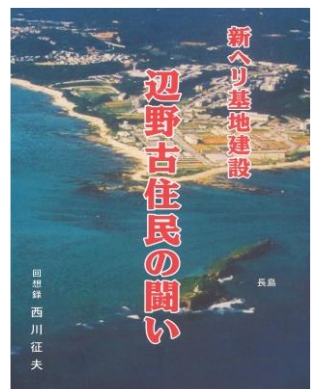
公判後約50人の県民が裁判所前の公園で報告集会を開き、高良鉄美参院議員が挨拶しました。原告団の浦島悦子さんは「今日の弁論で結審する恐れもあったのですが審理が続くことになり、今後の審理と傍聴が大事になります」と話しました。次回公判は11月18日（午後2時）に行われます。



写真上は城岳公園での報告集会。写真右は挨拶する高良参院議員。

### 草創期の辺野古のたたかいの記録 西川征夫さんが回想録出版

辺野古新基地建設に反対するため1997年1月に結成された「命を守る会」の初代代表を務めた西川征夫さん（77歳）が、このほど「新へり基地建設 辺野古住民のたたかい」と題した回想録を出版しました。



西川さんは「命を守る会」のおじい、おばあ達がどのように頑張ってきたか、子や孫の世代に知ってほしい」と回想録を豊富な写真を添えて出版しました。辺野古の草創期のたたかいの記録です。A5版255頁定価2,500円（税込）  
 申込は西川さんへ  
 電話・FAX 0980-55-2144

【訂正】前号ニュース「不屈館」のメディア講座の講師「藤原憲氏」は正しくは「藤原健氏」です。お詫びして訂正します。

### オール沖縄がサンゴ移植着手に抗議

辺野古新基地建設で沖縄防衛局がサンゴ類の移植作業に着手したことを受け、「オール沖縄会議」と国政野党の県選出国会議員でつくる「うりずんの会」は7月30日、県との事前協議もなく強行した作業の中止を求める文書を沖縄防衛局に送付しました。

**デニー知事が許可撤回**  
 玉城デニー知事は7月30日、県が条件付きで許可した防衛局のサンゴ特別採捕・移植について、許可を撤回することを発表しました。防衛局が高温水や台風の時節を避ける条件を守らずに移植作業を開始したためです。



防衛局は許可を受けた翌29日、サンゴ類の移植作業に着手しました。県の高水温期や繁殖期を避けることの許可条件に違反しました。（図は沖縄タイムス7月31日付より）